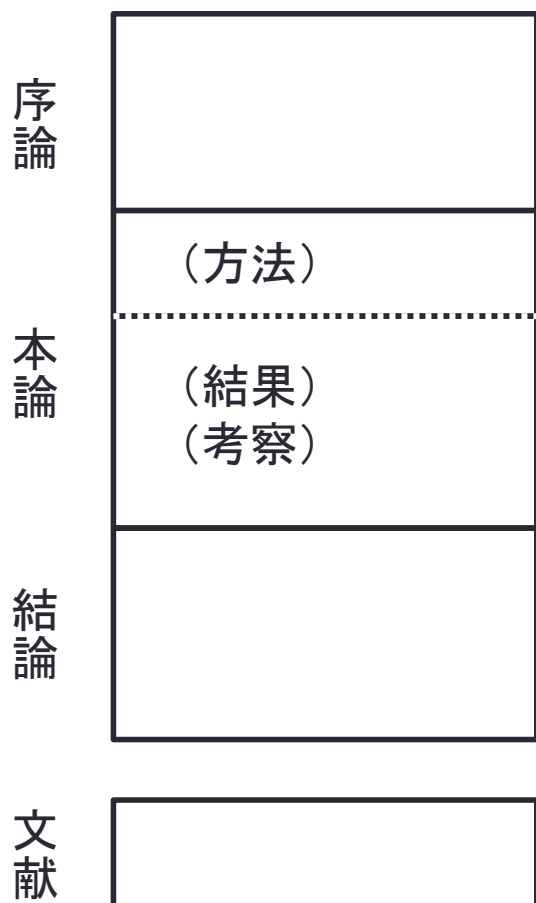


IT日本語

第7回 論文の構成要素(本論・結論)

立命館大学
情報理工学部
李 亮

【復習】本論の構成要素(2)



- 本論の書き方は、分野によって違いが大きく、展開パターンも様々。

結果と考察

- 図表の提示
- 図表のデータの説明
- 判断事項の指摘
- 原因の考察
- 予測

...

原因の考察

- ～(結果)のは～(原因)ためである。
～(原因)ため、～(結果)。
例：実験結果が試算結果とやや異なるのは、室温の影響を計算に入れなかったためである。
* 前者では結果よりも原因が強調される
- ～(原因)【により／によって】～(結果)。
例：室温の影響によって実験結果が試算結果とやや異なる。
- ～(結果)原因は～(原因)【である／にある】。
～(結果)原因として、～(原因)【がある／があげられる】。
例：実験結果が試算結果とやや異なる原因は、室温の影響にある。
- 論文では、文の後に「と考えられる」、「と思われる」など、筆者の判断を表す表現をつけることが多い。ただし、「があげられる」の後にはつかない。

予測

- ～(動詞)と【予測される／予想される】。
例：変化率は急激に上がると予測される。
*「予測される」は「予想される」より確実な根拠のあるはっきりした予測を表す
- ～(名詞・動詞こと)が【予測される／予想される】。
例：変化率が急激に上がることが予測される。
- 誰が予測であるかによって文末の形が異なる
例：2050年には自動車の自動運転が普及すると予想される。
(筆者)
例：鈴木は2050年には自動車の自動運転が普及すると予想している。(鈴木)
例：2050年には自動車の自動運転が普及すると予想されている。(不特定多数)

列举

- ～(名詞)は～つ(数字)ある。
～つ(数字)の～(名詞)がある。
例: よいスピーチの条件は二つある。
- 一つは～(名詞・形容詞こと・動詞こと)である。もう一つは～(名詞・形容詞こと・動詞こと)である。
第一は～(名詞・形容詞こと・動詞こと)である。第二は～(名詞・形容詞こと・動詞こと)である。
第一に、～。第二に、～。まず、～。また、～。さらに、～。例: 第一は、短いことである。第二は、何か一つ聞き手の心に残るポイントがあることである。

練習1

- 最も適当な語句を下から選びなさい。

職業を決める時に重要なポイントは三つ()。()自分がその仕事に向いていることである。()その仕事が好きだということである。()その仕事で生活していける見通しがあることである。しかし、これらの三つの条件をすべて満たす職業を見つけるのは難しい。

- | | | | |
|---------|---------|---------|--------|
| a. ある | b. がある | c. 最初に | d. その後 |
| e. 最後に | f. 第一は | g. 第二は | h. 第三は |
| i. 第一位は | j. 第二位は | k. 第三位は | |

同意と反論

- (私は)～(著者名)の見解に賛成である。
 - * 明確であるが、口語的
- ～(著者名)が述べているように、～(観点)。
 - * 観点の部分で引用しながら間接的に同意を示す場合が多い
- (私は)～(著者名)の見解には異論がある。
 - * 比較的はっきりした反論
- ～(著者名)の見解には疑問がある。
 - * 「反対である」という表現は、話し言葉的で直接的すぎるので、論文では使わない。
 - ** 後に反対する理由を述べる

練習2

- a～eの文を書いた人は、田中氏の見解に賛成ですか。それとも反対ですか。
 - a. 田中は電子メディアは紙の本にまさると述べているが、その見解には異論がある。
 - b. 田中は電子メディアは紙の本にまさると述べているが、私も同意見である。
 - c. 田中は電子メディアは紙の本にまさると述べているが、どうだろうか。
 - d. 田中が述べているように、電子メディアは紙の本にまさる。
 - e. 電子メディアは紙の本にまさるという田中の見解には疑問がある。

帰結

- **このことから、～(結論)と【言える／考えられる】。**
 - *「と言える」の方がより断定的である
 - **「と考えられる」と同様の意味で、「と思われる」、「と見られる」などの表現が使われることもある。
- **直前に述べた判明事項に基づく判断を示す：**
このことから、このことより、これより、この結果から...
- **考察に基づいて論理的にみちびかれる判断を示す：**
したがって、よって...
- **それまで述べてきたこと全体に基づく判断を示す：**
以上のことから、以上より、以上の結果から、これらの結果から、以上述べたことから、これまでの考察から...

換言・補足の接続表現

- すなわち／つまり

すなわち：別の言い方で詳しく説明する

つまり：別の言い方で簡潔に表す

- ただし

例：図1は2015年5月時点での調査の結果を示したものである。ただし、このうちAについては2014年のデータによる。

* 前に述べたことを一部修正

- なお

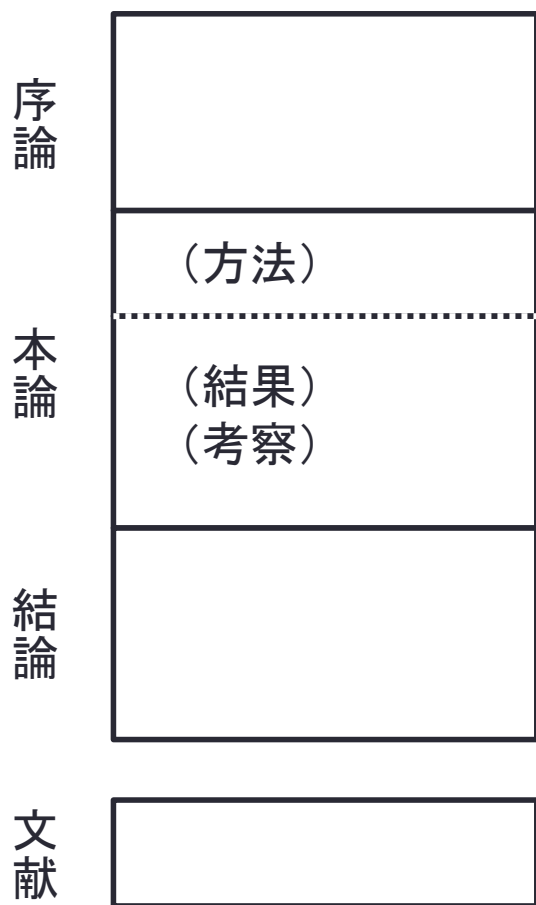
* 前に述べたことに関して情報を補足する

例：前のフレームの手領域座標よりも後フレームの手領域座標が下に移動した場合に「下に引く」検出される。なお、これらの動作は暫定的なものであり、今後、検出する動作を増やしていく必要がある。

練習3

- a～gの中で、筆者自身の見解を表す文はどれですか。
 - a. 歩くことは健康によいと思われる。
 - b. 歩くことは健康によいと考えられる。
 - c. 歩くことは健康によいと考えられている。
 - d. 歩くことは健康によいと言える。
 - e. 歩くことは健康によいと言われる。
 - f. 歩くことは健康によいと言われている。
 - g. 歩くことは健康によいと言えよう。

結論の構成要素



- それまでの研究行動を確認した上で結論を簡潔にするし、今後の課題を述べる。
 - 今までの内容と一致しないことを書かないようにする。
 - 序論：方向付け
結論：全体のまとめ
- a. 研究行動の確認
 - b. 結論の提示
 - c. 研究の評価
 - d. 今後の課題の指摘

研究行動の確認・研究の評価

- (本研究では、)～(対象)について【検討した／考察した】。
(本研究では、)～(対象)について【検討／考察／調査／実験／分析／解析】を行った。
例：本研究では、家電製品のインタフェースやNUIに関する先行研究の考察を行った。
- 本研究の意義は～(意義)という点にある。
例：本研究の意義はユーザにとっての負担が少ない新たなインタフェースの開発という点にある。
- 本研究では、～(名詞／動詞こと)ができた。
本研究では、～(名詞／動詞こと)ができなかった。
例：本研究では、試作したインタフェースにより、下記の可能性を見出すことができた。

結論の提示・今後の課題の指摘

- 【～(動詞た形)結果／～(名詞)により】、～(名詞／動詞・形容詞こと)が【明らかになった／示された】。

例：評価実験を行った結果、時間旅行の存在が明らかになった。

* 「動詞た形」で終わっている場合は、「その結果、」と書く

- 本研究の結論は【次のとおりである／以下のようにまとめられる】。

(1)～。

(2)～。

(3)～。

* 理科系よく使う

- 今後の課題は～(名詞／動詞こと)である。

～については、今後の課題としたい。

例：今後の課題は検出精度の客観的な評価である。

練習4

- a～gのうち、論文の結論の部分に出てくる文はどれでしょうか。
- a. 本研究では、メールにおける絵文字の使用について調査を行い、考察を試みる。
- b. メールにおける絵文字の使用について、年齢層による違いは見られるだろうか。
- c. この結果から、年齢層が低いほど、絵文字を使っていることが明らかである。
- d. 以上、メールにおける絵文字の使用について調査を行い、考察を試みた。
- e. 図1はメールにおける絵文字使用者の比率を年代別に示したものである。
- f. 最近、電子メールの通信文の中で、様々な絵文字が使われるようになってきている。
- g. 今後の課題は、メールにおける絵文字の使用についての人々の意識を明らかにすることである。